

# 平成30年度 事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

(社会福祉法人 雄勝なごみ会 多機能型事業所かざぐるま 指定放課後等デイサービス)

	チェック項目	はい	どちらとも		改善目標、工夫している点など
			いいえ	いいえ	
環境・体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		2	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当職員間の連携・工夫や他事業担当職員との連携を図りながら安心・安全なサービス提供に努めます。</li> <li>・パーティションなどで区切ったり、グループに分けたりして、個々の活動に支障の無いように活動していきます。</li> </ul>
	② 職員の配置数は適切であるか	3	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も職員の配置数・資格要件の適正化はもちろん専門性・質の高いサービス提供の確保に努めます。</li> <li>・職員の所休、年次が重ならないように話し合っています。</li> <li>・強度行動障害等の子どもたちの利用もあるので、突然、職員と1対1で対応しなければいけなくなった場合のことも考えながら、その日のメンバーで工夫していきます。その際は、他児事業所の職員にも協力してもらいながら、危険の無いように支援体制を整えていきます。</li> </ul>
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	5	1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者の方にとっては事業所全面バリアフリー化となっている事業所ですが、利用児童にはハード面で配慮が必要であり、個別対応で安心・安全な支援に努めます(トイレのサイズが大きい為、低学年向けに足元に台を置く、座る位置を確認する、近くで見守る等、個々に合わせて支援していき、自立できるようにしていく等)。</li> </ul>
業務改善	④ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	6			<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も個別支援計画書を支援ツールとし、全担当職員で支援会議を行います。また、月1回の部会での状況確認と、気付いたときの連絡体制を整え、子ども、保護者等の気持ちを職員間で情報共有していきます。(特に長期休業中は、連絡が漏れないように工夫していきます)</li> </ul>
	⑤ 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	6			<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度にいただいたアンケート調査結果を集計・分析し、次年度の事業計画にし、業務改善につなげていきます。</li> </ul>

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
業務改善	⑥ この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	4	2		・制度のもと、平成30年度よりホームページで公開していきます。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	5		1	・多機能型事業所かざぐるまとして、第三者による外部評価の導入について法人とも検討・協議していきます。
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	6			・今後も専門研修・関連研修等派遣等、OFF-JT、OJT職員派遣の資質向上、主体的な自己啓発を図ります。 ・研修後の伝達の時間を確保し、資質向上を図れるようにします。 ・自己研修の際も、参考になる資料等職員間で紹介し、専門的な知識を増やしていけるようにします。
適切な支援の提供	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	6			・今後もサービス提供の前提にある個別支援計画をツールに児童・ご家族主体の計画作成に努めます。 ・情報やニーズ、課題は変化していくことを忘れず、今後も単独でのアセスメントに偏ることなく、各関係機関で情報共有し計画に繋げていきます。
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	5	1		・標準化されたアセスメントツールを使用していますが、一人ひとりの個別性を重視しながら、より状況を図れるものに進化させ、対応していきます。
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っているか	6			・今後も担当職員全員でチームアプローチで臨みます。
	⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	6			・行事などの担当を替えて行い活動プログラムが偏らないようにします。 ・個々に合わせた活動、季節に応じた活動を取り入れて、マンネリ化しないように工夫していきます。
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ、細やかに設定して支援しているか	6			・平日のできること、休日・長期休暇にできる事を整理し、課題を明確にし、スケジュールの視覚化を図り、利用児と確認しながら支援していきます。
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	6			・お互いの気持ちや状況を理解し、子ども同士が協力し合って進められるような集団活動を設定し、支援していきます。 ・年度の個別支援計画を基に集団活動と個別活動をデイリープログラムに組み込み、計画に沿って支援していきます。

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
適切な支援の提供	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	6			・支援開始前のミーティング・準備は必ず実施しており、今後も継続していきます。
	⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	6			・今後も、その日のうちに出来なかったことは、翌日申し送りをするが、長期休業日の期間は特に気をつけ、抜け・漏れがないように、共有化を図ります。
	⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6			・今後もその日のうちにケースを記録するが、わからない点は複数の職員に確認しながら行い、支援の検証ができるように継続していきます。
	⑱ 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	6			・個別支援計画に基づいてモニタリングはもちろん、児童の変化課題に応じて、対応していきます。
	⑲ ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	6			・今後もガイドラインの基本活動を基本に複数組み合わせ合わせての支援を継続していきます。
関係機関や保護者との連携	⑳ 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	5	1		・今後もサービス担当者会議には児童発達支援管理責任者の他、担当職員も出席できるような調整を図っていきます。
	㉑ 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	6			・今後も、毎週ファックス、電話等で連絡を取り合い、トラブルのないように確認しあい、連携していきます（送迎について）。 ・連絡帳では、家庭、学校、放課後等デイサービスで共有できるような形式をとっているが、連絡帳、電話等で情報共有が難しい場合は、相談員を通して担任や保護者と話し合う機会を設ける等、連携の更なる強化を図っていきます。
	㉒ 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		5	1	・現在医療的ケアが必要な利用児童は在籍していませんが、進行性疾患、精神保健福祉手帳所持の発達障害の児童もあり、ご家族の承諾のもと、必要時個別に主治医との体制を整えてゆきたいと思えます。

	チェック項目	はい	どちらとも		改善目標、工夫している点など
			いいえ	いえない	
関係機関や保護者との連携	⑳ 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	6			・今後も、児童発達支援(市主催の幼児教室や保護者主催のすぎのこ会)の場に参加しながら、就学前の現況等の情報の共有化を図っていきます。
	㉑ 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	6			・一人ひとりの児童のライフステージに応じて次のステージにつなぐ役割を持っており、依頼があった際はご家族の承諾を得て提供していきます。
	㉒ 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	4	2		・専門研修については、年間1～2名の職員の派遣の為、事業所での確実な復命研修を実施し専門性のスキル向上に努めていきます。
	㉓ 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	4	1	1	・公園・駅・市立図書館等に出向き、地域住民と交流の機会を支援していきます。 ・今後、地域の放課後等デイサービス事業所との交流の機会も検討していきたいと思います。
	㉔ (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	3	2	1	・今後も地域自立支援協議会、児童療育部会に構成員として参加し、地域の状況・動向を事業所で共有できるよう努めます。
	㉕ 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	6			・今後も連絡帳、口頭でその日の状況を情報交換し、状況・課題の共通理解に努めます。
	㉖ 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	2	4		・「保護者の支援」は放課後等デイサービスの支援の役割の重要項目と捉え、適宜相談支援対応に努めます。ペアレント・トレーニング等専門的なアプローチについては、研修受講し、実践につなげたいと考えます。

	チェック項目	はい	どちらとも		改善目標、工夫している点など
			いいえ	いえない	
保護者への説明責任等	③⑩ 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6			・わからない時は、いつでも質問を受け付けていることを保護者に伝え、職員全員が説明できるように努めます。
	③⑪ 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	6			・保護者の信頼関係のもと、誠実に今後も支援していきます。
	③⑫ 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	1	3	2	・保護者同士のパイプ役になって行けるように、送迎時や保護者参観日の交流できる機会を逃さず、情報交換できるような環境を作り、サポートしていきます。
	③⑬ 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6			・苦情解決委員会を事業所に組織し、各事業ごと受付窓口を設置し、今後も迅速、適切な対応に努めていきます。 ・話し易い環境づくりを、心がけていきます。
	③⑭ 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	6			・事業所の家族通信、健康通信に合わせ、放課後等デイサービスの月間行事予定を全ご家庭に発信し、共通理解を図ります。
	③⑮ 個人情報に十分注意しているか	6			・法人の個人情報管理規定を基に個々に十分説明し、同意をいただいた上で、取り扱いには十分に注意し、今後も対応します。
	③⑯ 障害のある子や保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	6			・今後も一人ひとりのコミュニケーション状況に応じた伝達の仕方を工夫していきます。
	③⑰ 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	5	1		・今後も「地域に開かれた事業所」「地域共生社会」に向けて、地域交流イベント、地域貢献等に取り組みます。
非常時の対応	③⑱ 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	4	2		・事業所においては、各マニュアルを整備しておりますが、今後、保護者の方にも提示し、周知を図っていく必要があり、機会を設定していきます。
	③⑲ 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	3		3	・事業所では、毎月実施しているが、放課後等デイサービス利用児の非常災害を想定した避難訓練を実施していないため、今後計画的に実施いたします。

	チェック項目	はい	どちらとも		改善目標、工夫している点など
			いいえ	いえない	
非常時等の対応	④① 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	6			・事業所に虐待防止マネージャーを配置し、施設内研修等で意識の共有化を図っていますが、今後事業所内全職員が伝達研修を受講し、全職員の共通意識改革を図ります。
	④① どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	6			・安全確保のためやむを得ず身体拘束が必要な場合は、今後も個別支援計画に必ず記載し、ご家族から同意書をいただき、定期的に見直しを行います。
	④② 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	4	2		・今後も適切に対応していきますが、アレルギーがある場合は必ず指示書の提出をお願いし、栄養士、調理担当に報告し、適切な対応をしていきます。
	④③ ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	6			・事故・ヒヤリハットについては、委員会を組織し、報告→検証→課題→対策のプロセスに沿って共有し、再発防止、事故発生に至らないように努めています。

※ 実施期間 平成31年 2月12日～22日

※ 6配布 6提出 提出率 100%